

虚子記念文学館投句特選句・令和三年三月

稲畑汀子 選

花ミモザ未来信じる看取妻

兵庫 森岡喜恵子

春風や虚子館はドア開け放ち

新潟 安原 葉

病室に卒業証書届きたる

兵庫 三村純也

懐に抱く分校春の山

兵庫 小杉伸一路

ふくよかな虚子のふところ紅椿

兵庫 小柴智子

朝桜ひとゆれもなく散りゆける

神奈川 進藤剛至

下萌や舗道の隅に隙間なく

兵庫 高市敦之

歳月や記念樹春の空を突く

大阪 林 曜子

三月や焦土と津波経験す

大阪 西尾浩子

海を向く干物のまなこ涅槃西風

兵庫 武田奈々

(青少年)

入選句・令和三年二月

春光を抱きぬ虚子のふところへ	京都	杉森大介	久しぶりの句会館の庭の春	大阪	辻田あづき
春昼や年尾像ふと眼のやさし	兵庫	川村ひろみ	雛の軸かけて両家の顔合はせ	兵庫	山田佳乃
久闊の土曜の句会春めいて	三重	松村咲子	春昼のぶらぶら歩き芦屋川	兵庫	阿曾宏之
番鴨寄り添ふ距離に水温む	大阪	山下幸典	白酒に五人囃の賑々し	奈良	芳林淳子
古き知るはしりとなりし双椿	大阪	水口真実	芦屋にも残る浜辺や磯遊	兵庫	玉手のり子
啓蟄や雨後のゆるみし土にほふ	兵庫	内田泰代	目覚むれば音ひそやかに春時雨	大阪	綿谷千世子
青空も師の庭となすミモザの黄	岡山	奥山登志行	ものの芽の千千に集まる河川敷	兵庫	山岸正子
いちはやくひかる海風花ミモザ	兵庫	黒田千賀子	炊きたてのいかなご煮持て馳せし会	兵庫	三木雅子
早春の新しき日や先人の道	大阪	梅田菜々子	強東風にふるへてをりし大玻璃戸	兵庫	入谷千恵子
園丁と二言三言暖かし	兵庫	高野さち	強東風の季節めくつてゆきにけり	兵庫	山口弘子
ま向ひぬ春らんまんの鉢ならむ	京都	宮本幸子	海風に揺られて咲きぬ枝垂梅	兵庫	長安悦子
虚子館の庭はまほろば木の芽吹く	石川	村上秀吾	梅は岡本謳はれし時もあり	兵庫	小川孝子
やはらかな風のあはひや青き踏む	兵庫	吉村玲子	湧き出づる有り難き水お水取り	奈良	堀ノ内和夫
三川の風の出合ひや鳥帰る	大阪	田邊育子	祥瑞やきらきら光る春の水	大阪	赤田 浩
初音聴き初心かえりて仕事をす	兵庫	近藤ゆき	日も声も華やぐ春のバルコニー	兵庫	辻 桂湖
春障子通して庭の息吹あり	京都	山崎貴子	大いなる椿落ちたる静寂かな	兵庫	藤井啓子
流れ着く薄氷ふいと消えにけり	岐阜	花川和久	椿越し家の灯見ゆる夕べかな	兵庫	岸川佐江
館と邸繋ぐ大空花ミモザ	兵庫	奥田好子	卒業の無き句の道を学ぶ館	京都	西村やすし
やはらかき間引菜散らし菜飯かな	兵庫	高橋純子	燕来て真つ新たな空ありにけり	京都	前 悦子
ホ句の明日拓く力や名草の芽	兵庫	涌羅由美	青竹は子が切り垣を繕ひし	大阪	大川隆夫
欄干の弾痕三月十日の忌	兵庫	武田優子	車椅子寄せてロビーの雛飾	大阪	河辺さち子
うららかに生く海を見て山を見て	石川	辰巳葉流	回覧板届けて雛の客となる	大阪	須知香代子
目の合へば梅見の人となるふたり	兵庫	永沢達明	薄墨の桜の空に溶ける日よ	兵庫	池田文子
山笑ふ補助輪とれて得意な児	兵庫	深尾真理子	守衛にも卒業祝がれをりにけり	兵庫	松田恭子
そこそこに命の息吹春の山	奈良	好川忠延	野佛に野花を供へ彼岸かな	兵庫	岸田 健
花ミモザ力もらひて希望また	兵庫	槌橋眞美	いささかの素振りも見せず鳥帰る	滋賀	石川多歌司
欲しいもの浮かばぬ暮し菜飯炊く	兵庫	池田雅かず	花ミモザ風を纏ひて記念館	兵庫	古谷かりん
日の色をここに集めて白椿	兵庫	前田 千	夕ぐれの鶴塚橋や涅槃西風	兵庫	西村みどり
			剪りそろへあり雪柳ちよと揺れて	兵庫	高杉靖子

浜風に早緑揺るや柳の芽	滋賀	尾崎恵子
落椿白のはなやぎありにけり	滋賀	磯田ひろみ
春の海風て久遠の鎮魂歌	神奈川	平野孤舟
肩を組むやうにつらなり山笑ふ	兵庫	渡辺しま子
白重ね白極まりぬ雪柳	兵庫	福間笙子
庵結ぶ吉野山美し西行忌	兵庫	山本康子
水音を緋に染め椿咲き溢る	兵庫	二瓶美奈子
山並の染まる紫夕霞	石川	辰巳昌彦
虚子館に今満開のミモザかな	兵庫	キートスばんじょうし
美奇さんと一問一答野に遊ぶ	石川	伊東弥太郎
蹴り上ぐるシーソー高く山笑ふ	東京	宮村土々
雫して晴天待てりつくづくし		三球
箴梅辿る生田の森の故事	神奈川	小堀公美子
ロザリオの珠のもつれて春愁	兵庫	岩鼻絹子
ひと雨に春爛漫となりし庭	兵庫	田村恵津子
ひよろひよるとつむりの焦げし土筆かな	神奈川	金子三奈乃
土筆野を行くや童子の時を行く	埼玉	土井洋子